

記 録 *Record*

## 第10回ものづくり大学教育研究推進連絡協議会議事概要

- 1, 日時：平成23年2月17日
- 2, 場所：経団連会館（402号室）
- 3, 出席者：33社38名
- 4, 次第

- (1) 会長挨拶
- (2) 学長挨拶
- (3) グローバル人材育成について議論

## ①大学からの現状報告

神本学長から本学の現状報告を行った。

## ②会員企業からの発表

## ②-1 トヨタ自動車株式会社 渉外部 担当部長永田俊彦氏

- ・本人にとってよりチャレンジングな配置を通じて、経営人材としての能力・経験を高め育成していくことをねらいとした「G21プログラム（グローバルトヨタ人材育成の共通人事制度）」を導入しており、中長期視点での課題創造力、課題遂行力の強化、並びにリーダーシップや経営への当事者意識の育成を図るプログラムを実施している。

## ②-2 賛光精機株式会社 専務取締役清水洋氏

- ・グローバル人材に望む資質は、「コミュニケーション能力」、「自己認識」、「主体性」、「自国文化の理解」、「道徳観（倫理観）」であり、エゴグラムの活用や6S（QC）、社内研修、改善提案等を実施している。

## ②-3 清水建設株式会社 人事部長石原誠氏

- ・「国内と海外の人材交流の活性化」、「語学力の強化（まずは英語力）」、「海外留学・企業派遣の強化」、「海外ローカルスタッフの拠点幹部育成」などのグローバル人材育成を実施している。
- ・大学には、異文化コミュニケーション能力の養成やたくましい人材の育成を期待している。

## ③意見交換

飛内学部長を司会として下記意見、要望等があった。

- ・日本は人の資源しかないので、教育は大事な国の柱である。産業立国の日本において、ものづくり大学の重要性は増していると認識している。国内、国外といった壁はないという考え方で大学の教育を行って欲しい。英語も大事であるが、コミュニケーション能力として、まず日本語教育が必要である。基本はあいさつからしっかり行うことである。
- ・まだ、大学間の提携が進んでいない。学長もしくは教員の交流・連携を活かして、大学間の提携や留学生交換を行ってはどうか。また、英語教育は英語で行ったほうがよい。その中でコミュニケーション能力を育てて欲しい。
- ・教員の国際交流はもちろんであるが、もっと学生の国際交流を具体的に進めてはどうか。
- ・技術部門、海外支店での採用はある。総合職としての採用は昨年からであり、これから増やしていこうというところである。日本の文化や企業について十分な理解がある留学生からまず採用していきたいと考えている。